

第1回鳥取駅周辺リ・デザイン会議 議事概要

1 日 時 令和5年8月21日（月）14時～16時

2 場 所 鳥取市役所本庁舎6階第6～8会議室

3 概要・骨子

【市長あいさつ】

鳥取駅の周辺では、昭和42年から昭和53年にかけて行われた高架事業と、昭和55年に完成した駅前の区画整理事業の二つの事業が行われ、その後の鳥取市の発展に大きく貢献してきたが、50年あまり経過しており、社会のあり様や街の様相も大きく変化してきている。

現在は、国道29号のバイパスの完成などにより、中心市街地の直接通過交通が無くなるという大きな変化があり、併せて、当時整備されたバスターミナルビルの老朽化が進行している状況や鳥取駅前の動線が分かりづらいことなど多くの課題がある。

新しい時代を迎えるに当たり、鳥取駅周辺再整備の取り組みを市政の最重要課題の一つとして位置付け、委員の皆様のお力添えやご提言をいただきながら、しっかりと取り組んでまいりたいと考えている。

鳥取駅周辺は、鳥取市はもとより、麒麟のまち圏域の中心となるエリアでもあり、ここの活性化を図っていくことで、圏域の将来の発展にも繋がるものと考えている。委員の皆様には、忌憚のないご意見、ご提言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【委員紹介】

省略

【座長・副座長の選出】

委員の互選により、座長に 谷本 圭志 委員を選出

座長の指名により、副座長に 岡 周一 委員を選出

【議題（1）鳥取駅周辺再整備に向けて 事務局から説明】

資料により説明

【議題（2）鳥取駅周辺再整備の方向性などの意見交換】

1. 再整備の方向性について

- ・ 健全な共創環境を醸成するためにも、まちのコンセプトや、どのような人材や企業を必要としているのかなど、一本筋の通ったメッセージを出すべき。
- ・ 駅周辺の再整備については、鳥取の今後の50年を左右しうる話であり、コンセプトとして『50年の成長を牽引する』というメッセージを入れてはどうか。また、ランドマーク的な要素も含めて、駅周辺の拠点に関して、より強いメッセージを出した方がいいのでは。
- ・ この会議のコンセプトとして『若者』は、外せない視点だと思う。

2. 災害に強い拠点整備について

- ・ 災害時に、障がい者の方が落ち着いて行動できるよう、緊急時における施設内の情報提供のあり方や方法についても、よく考えておく必要がある。
- ・ 防災機能の検討に当たっては、日常時にどのように使い、防災時にどのように展開出来るかということと同時に考えなければならない。

3. 交通ターミナル機能の再編等について

- ・ 交通機能を集約化するには、人や車の動線に配慮が必要であり、安全で使いやすいものとするためにも、縦動線を軸に検討し、建物の一体化を目指してはどうか。
- ・ バスの待機スペースが非常に少なく、周辺道路の交通渋滞への影響も出ている。災害の際に、大量輸送が発生した場合、今の環境では、全く対応できるようなスペースがないため、検討が必要。
- ・ 運転者の休憩場所については、現状、劣悪な環境にあり、安全運行の継続という観点からも改善が必要。
- ・ 鳥取駅を出た時に、まち全体（シンボル）が見えるよう、一定規模の空間を取るようにすることが重要と考える。
- ・ 駅の南側の流動も一定規模出てきており、今後増加していくと考える。南北が一体になり、両方使えるような、広い議論ができればと考えている。
- ・ 自動車交通の輻輳状態を解消し、一般車両、バス、タクシーを分離して乗り入れる仕組みを作り、安全性を確保する必要がある。

4. 賑わい拠点づくりについて

- ・ 賑わい創出に関しては、ランドデザインを大きく描くことが大事であり、次世代を担う若者達の居場所をつくる上でも、意見を取り込んでいく必要がある。最初は大きなものを描いておいてから、そこから出来ることと、出来ないことを考えていく方が良いと思う。
- ・ 若者達で賑わう滞留空間を作り出すには、図書館や、市で議論している美術館や文化ホールなどの公共施設を駅前に持ってくれば良いと思う。そのような整備を行う上で、官民一体となった施設づくりで複合施設の検討も行うことが必要。
- ・ JRの本数も少ない中、楽しくなれるのは大事。その手段として、色々歩くということがあるし、図書館は、本を読んで待ち時間を短縮できるので親和性が高い。
- ・ 駅の機能として、買い物が出来たり、保育所があつて子どもを預けることができたリするなど、子育てに必要なもの、子育て支援の視点で検討することも必要である。
- ・ 駅前に様々な公共施設を集約していくことが必須である。併せて、行政の方から民間投資の流れを作りながら複合施設を整備するような検討も必要である。
- ・ 賑わい創出を考える場合、民間事業者が主役である。産官学金のプラットフォームが重要であり、本会議は、そのような機能を果たしているように思う。
- ・ 賑わいをどうするかをまず考えるべき。公共施設などの人が集まる施設を駅に集約し、人が集まってくる中、街の顔である駅に、どういう機能を持たせるのかということを中心に考えながら進めていかないといけない。

- ・ 駅にどのような人達を第一に集客したいのか、コンセプトをしっかりと考え、それに従って集客施設や事業というものを誘導していくことが必要。
- ・ 交通拠点を立て派にしても人が来るわけではない。人が集まるものは何かというのが重要であり、暮らし目線で、必要な機能を検討する必要がある。
- ・ 生活スタイルの中心になるように、人が使うものを駅に入れていく。それには、ペルソナの想定も必要で、そこに明確に打ち出していくことが必要だと思う。

5. 駅から市街地への回遊等について

- ・ 駅南北の賑わいを繋げ、それをまち全体に伸ばしていくような発展の仕方をしていくよう検討を進めるべき。
- ・ 車中心から人中心のまちづくりへと転換することが必要であり、「歩く」というキーワードで公共空間や民間施設を繋げていくようなイメージの共有が大事である。
- ・ 駅南側は、店舗の中は賑わっているが、歩行者用の動線があまり確保されていないようなイメージを持っている。

6. その他（検討の進め方、留意点など）

- ・ 地方のJR系の駅にあるショッピングセンターとしては、いかに相乗効果を生み出すかが重要だが、ショッピングセンター自体が衰退している事もあり、あり方が問われているため、柔軟に考えていかなければならない。
- ・ 民間事業者の意見を引き出すには、行政が何をして欲しいのか、制約条件や整備予定を具体的に出して欲しいというようなことがある。逆に、行政の側がそのようなことを出すには、集客、採算、需要や、地域の特性、競合施設などを見極めることが重要で、それがないとなかなか前に進めない。
- ・ 全体のまちづくり計画、交通計画と密接している駅は重要であり、交通の専門家だけでなく、経済や、エネルギー、防災など、それぞれの分野の専門家の意見を統合した方がいいと思う。
- ・ 東部全域の取り組みとする必要がある。その中でも、特に、中高生、大学生など次世代を担う人たちの意見を聴き、反映することが大事と考える。

【議題（3）今後の進め方について 事務局から説明】

資料により説明

【議題（4）その他・交通社会実験について】

省略

【その他】

- ・ 次回会議は、令和5年10月27日（金）14:00からを予定。
- ・ 今後、会議の開催と併せ、個別に協議等を行いながら進めていくことを確認。